

徳島県議会議員

古川ひろし とくしま通信

VOL.2 平成28年12月15日発行

皆様の声を、徳島を動かす力に。
その架け橋をめざして。



地球温暖化防止の先進県として

9月議会で県の地球温暖化対策の新たな条例が制定され、2030年までにCO2を40%削減する目標が立てられました。県民や事業所のさらなる削減努力や、自然・水素エネルギーの推進などが必要になる中、まずは一人ひとりが現状と課題をしっかりと認識し、その気運を広げていかなければなりません。私自身も「地球温暖化を考えるセミナー」を企画し、その脅威を広く伝え、具体的な行動へと移していただくための取り組みを進めてまいります。

地域で見守り支える高齢社会の実現

団塊の世代全員が75歳以上となる2025年問題が指摘されるように、日本は世界一の速さで高齢化が進んでいます。少子化も同時に進む中で懸念されるのが、医療・介護・福祉分野のマンパワー不足です。2030年には就労者の6人に1人がヘルスケア関連の仕事に就く必要があると言われています。議会でも優秀な福祉事業者に対する表彰制度創設の提案をさせていただいたように、今後も福祉や介護の仕事に光を当て、その魅力を伝えていきたいと考えております。

イベント民泊で阿波踊りを元気に

地方創生に向け、阿波踊り期間中のイベント民泊についても議会で提案をさせていただきました。徳島にしかない本場の良さを多くの観光客に体験していただき、さらなる徳島ファンづくりを進めるためにも、宿泊場所を確保する必要があります。県が中心となり、周りの市町村を巻き込むよう、議会でも強く提案したところ「検討会を立ち上げる」との回答を得ました。今後も環境、福祉、観光などのあらゆる分野から、徳島の未来を切り拓いてまいります。



重度身障者の 切実な思いをうけ 粘り強く推進

重度身体障がい者の訪問入浴サービス費用への助成が今年度から徳島市で実現。その活動が平成28年8月27日付公明新聞で紹介されました。

古川広志 プロフィール

(ふるかわ ひろし)

- 生年月日 昭和36年(1961年)8月12日
- 出身地 徳島県阿南市那賀川町
- 現住所 徳島県徳島市住吉6丁目7-45
- 家族 妻(ひとみ)と2人家族
- 現党職 公明党徳島県本部 代表代行

●経歴

- 昭和49年 平島小学校 卒業
- 昭和52年 那賀川中学校 卒業
- 昭和55年 富岡西高校 卒業
- 昭和59年 創価大学経済学部 卒業
- 昭和59年 徳島県庁 入庁
- 平成26年 徳島県庁 退職(8月31日)
- 平成27年 徳島県議会議員に初当選

【県議会】〒770-8570 徳島市万代町1-1
TEL 088-621-3034 FAX 088-621-2814

【事務所】〒770-0861 徳島市住吉6-7-45
TEL・FAX 088-612-7118

携帯 080-5661-7372

h_furukawa_houmi@yahoo.co.jp

H P <http://hiroshi-furukawa.jp>

 facebookで活動報告を発信中!



徳島県議会 平成28年9月定例会 一般質問

県庁の働き方改革の推進や、重症心身障がい児のための新たな制度づくり、阿波踊り開催期間中のイベント民泊の実施など、9月議会では徳島の未来を見据えた質問を行いました。当日の内容をダイジェストでお伝えします。



保育士さんから子ども・子育て支援についてヒヤリング。



石井国土交通大臣に四国横断自動車道の整備等を要望。



「イクメンプロジェクト」公開プレゼンに参加。WLB社小室社長にご挨拶。



美波町「(株)あわせ」を訪問し、サテライトオフィスの取り組みを視察。

県庁の「働き方改革」の推進について

質問 県庁の「働き方改革」を加速させるため、中堅・若手職員と民間企業等をメンバーとする「働き方改革推進チーム(仮称)」を設置してはどうか。

答弁 [知事]長時間労働は職員の健康保持に支障をきたし「仕事と子育てや介護」の両立を困難にすることから、ノー残業ダイの徹底や県版サマタイム期間中の重点的なワーク・ライフ・バランスの推進等の取り組みを進めてきたところであります。今後は、これまでの取り組みをさらに進化させるとともに、県職員の次世代育成や女性活躍に若手目線での検討を進める「特定事業主行動計画推進委員会」のメンバーに、先進的な取り組みを実施する民間企業に参画いただく新たな部会を設置し、国の動向に遅れることなく、スピード感を持って県庁の「働き方改革」に取り組んでまいります。

医療、介護、福祉、子育てサービス大賞(仮称)の創設について

質問 優れた事業所を顕彰するため、医療、介護、福祉、子育てサービスに関する事業所の先進的な事例を紹介・表彰する「医療・介護・福祉・子育てサービス大賞(仮称)」を創設してはどうか。

答弁 [保健福祉部長]医療、介護、福祉、子育てサービスの需要増大が見込まれる中、事業所の先進的な事例を発表する制度も含め、人材の確保と定着の促進に向けて取り組んでまいります。

重症心身障がい児のための新たな制度づくりについて

質問 医療的ケアを要する重症心身障がい児が利用する事業所を調査した上で、課題の整理や対策の取りまとめを進めるべきではないか。短期入所施設拡大のため、入院診療報酬と介護給付費との差額相当を補填する制度を創設してはどうか。

答弁 [保健福祉部長]重度の知的障がいと肢体不自由が重複している重症心身障がい児の方々が、自宅で安心してご家族と過ごせる環境を整えていくことは重要な課題であると考えております。議員のご提案も踏まえて、医療的ケアを要する障がい児の支援に関する検討会を新たに設け、福祉サービスを提供する事業所における課題把握に努めます。また、調査で明らかとなった課題解決のための効果的な対策を検討し、重症心身障がい児とご家族への支援体制の充実を図ってまいります。

VRを活用した観光情報の発信について

質問 本県の外国人観光誘客等をさらに推進するため、阿波踊りなどの観光情報の発信にVRを活用すべきと考えるが、所見を伺いたい。

答弁 [商工労働観光部長]VRの活用につきましては、臨場感あふれる映像で疑似体験をしていただくことで、その魅力を強烈に印象づけられるものと認識しております。今後、観光情報の発信への活用について研究してまいります。

福祉避難所の強靱化および人材確保の推進について

質問 南海トラフ巨大地震に備え、福祉避難所の強靱化および人材確保のため、介護職員の広域的な協力体制やボランティアを積極的に活用する体制整備を、国と連携して早急に推進すべきと考えるが、所見を伺いたい。

答弁 [保健福祉部長]福祉避難所は一般避難所では生活が困難な高齢者や障がい者などの要配慮者に対して市町村が指定するものであり、その機能を十分に果たすためには人材育成や地域との体制づくりが極めて重要であると認識しております。今後とも南海トラフ巨大地震に備え、災害発生時に福祉避難所が十分に機能を発揮するよう、国や全国規模の支援と協調するとともに、県内市町村や社会福祉施設等との連携強化を図り、要配慮者の方々が安心して避難生活が送れるよう取り組んでまいります。



阿波踊り開催時におけるイベント民泊の実施について

質問 徳島市の阿波踊り開催時におけるイベント民泊の実地について、県が中心となって推進してはどうか。

答弁 [副知事]徳島市の阿波踊り期間中には宿泊施設の確保が困難であることから、イベント民泊は一時的な宿泊施設の不足に対応する有効な手段であり、宿泊旅行者の増加により観光消費の拡大にもつながるものと認識しております。本年4月1日には国からイベント民泊を積極的かつ円滑に実施するための「イベント民泊ガイドライン」が示され、県においても市町村や旅館業関係団体等に周知を図ったところです。今後、阿波踊り期間中のイベント民泊については、県、徳島市、関係団体の実務者レベルで検討会を開催し、課題や条件整備等について検討を進めてまいります。

阿波踊り民泊の具体案を求める姿が徳島新聞に掲載されました。

平成28年10月7日付の徳島新聞記事中に、県議会9月定例会で私の行った質問が掲載されました。

阿波踊り期間中におけるイベント民泊推進の提言に対し、県から「近く検討会を設置する」という回答を得ることができました。



障がい者の小さな声を これからの未来づくりに

徳島県相談支援専門員協会

代 表 堀本孝博さん

副代表 島 義雄さん 高尾武志さん 松下義雄さん

当時から現場の声を施策に反映

障がい者の方が豊かに地域で暮らしていける社会を築くため、身体、知的、精神などの障害種別にかかわりなく適切なサービス調整を行っていくのが私たち相談支援専門員の役割です。古川さんは県職員の時代から私たちの要望に耳を傾けていただき、モデル事業の実施や研修会など多くの事業を積極的に開催してくださいました。

重症心身障がい児に差した光

議員になられてからは、重症心身障がい児の問題にも光を当ててくださいました。対象者数が少ないため支援体制も十分ではなく、ご家族の負担も大きかったのですが、今年の議会で取り上げていただいたことで、制度改革の第一歩を踏み出すことができました。議員



写真左から、松下さん、島さん、堀本さん、高尾さん

になってからも常に現場に訪れ、小さな声に耳を傾け続けた姿勢の表れであると思います。

安心に包まれた共生社会の 実現に向かって

数年間のうちに、さまざまな制度改正が行われるなど、障がい者福祉はまだ完成された制度ではありません。県民の方々が安心して暮らせる共生社会を実現するために、今後も当事者や関係者の声を聞いていただき、県の政策に反映していただければと思います。私たちも古川さんの頑張りに負けないよう、協会に所属する相談支援専門員のつながりをさらに強めながら、しっかりと対応してまいります。

活動状況

暮らしに寄り添いながら、笑顔を増やしたい。

●生ごみ処理場の視察

喜多川真好さん

高効率・低コストで生ごみ処理が実現できるシステムを、徳島にも導入すべきだと考えていました。古川議員自ら岡山県和気町の視察に同行していただき、感謝しています。



●県営団地の自治会支援

亀井政文さん

県営津田松原団地の自治会議長を務めています。住民の方々と県住宅課との意見交換の場を設けてくださったことで、より前向きな自治会活動へとつながっています。



●Uターン者の就職支援

吉田和代さん

香川から徳島に帰ってきた際、福祉関係で働きたいと願っていました。福祉への取り組みに熱心な古川議員に紹介していただき、無事就職することができ仕事に励んでいます。

